

番号	6	事業名	地域活力基盤創造交付金(関連社会資本整備事業)	市町村名	伊那市	路河川名	(一)猪の沢川	箇所名(ふりがな)	下小出(しもこいで)	
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○平成11年に出水による被害が発生。(床上浸水1戸、床下浸水2戸、農地浸水 田3.4ha、畑0.2ha)</p> <p>○平成12年度より、県単河川改修事業にて天竜川合流点から上流へ順次改修工事を実施。(天竜川合流点の樋門及び樋門から59m上流までは国土交通省で施工)</p> <p>○平成18年に再度出水による被害が発生し、地域住民の未改修区間の早期完成に対する気運が高まる。</p> <p>○平成21年度に「地域活力基盤創造交付金」が創設され、平成21年度より交付金事業へ移行。平成24年度事業完了。</p>					②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)		評価	
							○護岸工にかごマット工法を採用し、良好な自然環境が保全された。			B
事業目的	<p>○30年に1回程度の確率で発生すると予想される降雨による洪水(計画下流地点である国道153号橋梁部で毎秒34.1立方メートル)に対し、河道拡幅により流下能力の確保を図り、周辺地域の家屋、田畑への浸水被害を防止し、資産を守る。</p>					③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)		評価	
							○地元地区や地元土地改良区が河川愛護団体を組織して堤防部の草刈りを実施している。	○地元では対応困難な河床部の草刈り及び埋塞土除去を河川管理者で実施している。		A
事業概要	当初工期	H21~H24	費用対効果(当初時)	2.25	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	最終工期	H21~H24	費用対効果(評価時)	2.25	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源	
	当初計画内容(主な工種)	護岸工 L=190m 橋梁工 N=3橋(内1橋は水管橋)			148,000	74,000	-	66,600	7,400	④地域住民等の評価
	最終事業実績(主な工種)	護岸工 L=190m 橋梁工 N=3橋(内1橋は水管橋)			144,600	72,300	-	65,070	7,230	
事業期間の延長、短縮理由と分析	当初計画どおり実施					地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)		評価		
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	請負差金による減額					改善措置の必要性		○治水安全度が向上し、地域住民から安心であるとの声をいただいた。	A	
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)					評価				
	直接的効果 (定量的・定性的)	<p>○河川の流下能力が4.5m<sup>3</sup>/sから34.1m<sup>3</sup>/sに増加し、治水安全度が向上した。</p> <p>○保全対象である家屋26戸、耕地7ha、緊急輸送路である国道153号、JR飯田線の浸水被害が防止された。</p> <p>○整備完了後の平成24年度から平成29年度まで、出水による浸水被害等は発生していない。</p>					B	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	<p>○河川パトロールにより河川状況を把握するとともに、地元地区や地元土地改良区が組織する河川愛護団体と協力し、草刈りや埋塞土除去を行い適切な維持管理を行う。また、今後の事業実施に当たっては、計画段階から地域住民と維持管理についての協議を行い、これまで以上に地元の積極的な参画を促し、地域との協働による事業の実施を促進する。</p> <p>○河川が本来有している生物の生息環境や多様な自然環境を保全・創出する多自然川づくりを実施する。</p> <p>○橋梁の拡幅に当たっては、橋梁前後の道路拡幅工事の進捗も考慮する等、他事業とも連携し早期に効果が上がるよう配慮する。</p> <p>○HPやtwitter、新聞掲載などの報道により、整備効果をPRすることが大事である。</p>	
		間接的効果 (定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	○市道橋が拡幅され、市道の利便性が向上した。						所管課意見	<p>○河道拡幅により、流下能力、治水安全度が向上していることから、事業の目的を達成している。</p>
						技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。			A